

# SCARDAにおけるワクチン開発支援の状況について

# 「ワクチン・新規モダリティ研究開発事業（一般公募）」の課題採択・公募要領改訂について

- ① 日本医療研究開発機構（AMED）では、新たに設置した先進的研究開発戦略センター（SCARDA）による令和4年度「ワクチン・新規モダリティ研究開発事業」に係る公募について、外部有識者の意見を踏まえて、開発支援すべきワクチン（研究開発課題）の選定を進め、下記のとおり採択課題を決定した。

※ 公募期間：令和4年3月22日（火）～4月28日（木）

研究開発課題名	研究開発代表者	所属機関
レプリコンプラットフォームテクノロジーを用いた今後出現する株を含めたユニバーサルコロナワクチン開発	赤畑 渉	VLP Therapeutics Japan 合同会社
ユニバーサルサルベコウイルスワクチンの研究開発	山本 美奈	塩野義製薬株式会社

- ② 7月6日の生産・流通部会においてワクチン開発を支援する重点感染症が選定されたことを受け、7月29日に当該事業の公募要領を改訂した。（現在公募中）

公募研究開発課題	研究開発実施 予定期間	新規採択課題 予定数
1. 重点感染症に対する感染症ワクチンの開発	必要最小限の期間 (令和8年度まで)	数課題程度
2. 新規モダリティを用いる感染症ワクチンの研究開発	必要最小限の期間 (令和8年度まで)	数課題程度

※ 常時公募としているが、公募研究開発課題1について次回の選定スケジュールを目標とする場合には令和4年9月30日（金）17時00分までに提出

## 第3章 公募研究開発課題

### 3.1 研究開発費の規模・研究開発期間・採択課題予定数等 について

公募研究開発課題1について、今般、政府により、ワクチン開発を支援する重点感染症として選定されたものを対象とします。

公募研究開発課題2については、重点感染症に関する新規モダリティに加え、重点感染症以外の感染症をターゲットに開発しているモダリティであって重点感染症にも応用可能性が見込めるものについても対象とします。

また、ワクチン開発に資する新規モダリティについて感染症ワクチンへの応用可能性が期待されるものであって、必要な技術的課題を解決することを目指した研究開発\*1についても、今後、公募を予定しています。

(政府により、ワクチン開発を支援するものとして選定された重点感染症)

- ・呼吸器感染症（コロナウイルス感染症、季節性及び動物由来インフルエンザ\*2、RSウイルス感染症）
- ・エンテロウイルス感染症（エンテロウイルスA71/D68 感染症）
- ・蚊媒介感染症（デング熱、ジカウイルス感染症）
- ・その他の感染症（ニパウイルス感染症、天然痘・サル痘\*3）

\*1 「ワクチン開発・生産体制強化戦略に基づく研究開発等の当面の推進方針（令和4年2月28日 内閣府健康・医療戦略推進事務局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省）」参照

\*2 ユニバーサルワクチンや mRNAモダリティなど、次のパンデミックに対応可能なものを想定

\*3 痘瘡ワクチンの製法近代化に係る研究などを想定

## 参考資料



# 「重点感染症」として開発を支援すべきワクチンの検討結果

## ▶ ワクチン開発・生産体制強化戦略における「重点感染症」として開発を支援すべきワクチンの決定

○7月6日の厚生科学審議会ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会において、ワクチン戦略における「重点感染症」として、報告書暫定リストのGroup A及びBに含まれる感染症から以下1)から4)の点を考慮し下表の感染症を選定することが了承された。

- 1) 飛沫感染など、先進国においてもヒト-ヒト感染が容易に起こりうる感染経路を有するもの
- 2) 有効なワクチンが存在せず、かつ国内に臨床試験段階に進められるシーズがあるもの
- 3) 特にアジア地域において課題となっているもの
- 4) 海外において発症予防試験の実施が期待できるもの

	1)	2)	3)	4)
コロナウイルス感染症※ <sup>1</sup>	○			
季節性及び動物由来インフルエンザ※ <sup>2</sup>	○	○		
RSウイルス感染症	○	○		
エンテロウイルスA71/D68感染症			○	
デング熱		○		○
ジカウイルス感染症		○		○
ニパウイルス感染症		○	○	
天然痘・サル痘		○※ <sup>3</sup>		

※<sup>1</sup> 公募中

※<sup>2</sup> ユニバーサルワクチンやmRNAモダリティなど、次のパンデミックに対応可能なものを想定

※<sup>3</sup> 痘瘡ワクチンの製法近代化に係る研究などを想定